

例会報告
「光る！がたどろだんごを作ろう」
佐賀市（2025.6.22）

佐賀県ならではの干潟の泥を使った「がたどろだんご」作りに、東よか干潟ビジターセンターで取り組みました。

通常の泥団子とは違い、干潟の泥 100%で作る方法を開発した山田良典先生にご指導いただき、まずは東よか干潟についてのお話を聞きます。佐賀市には世界に誇る素晴らしい干潟があること、その干潟をたくさんのシギ・チドリなどの野鳥が利用していることを知りました。その礎となっているのがとてもきめの細かい潟泥なんです。

早速、少し水気をとばした潟泥を丸めていきます。ビニール手袋も用意していましたが、参加者の皆さんは素手で潟泥に触れて感触を味わい、「気持ちいい～」などの声が上がりました。潟泥は汚れを吸着する力があり、手の汚れが取れてつるつるになるとのこと…。空気が入らないようにきれいに丸めるのに苦労しながら取り組みました。

ここで、山田先生から「明日には重さで形が変わってしまうので、3日間ぐらい毎日お世話をして丸く整えてあげてください。磨いて仕上げるのは、10日ほど経ってカチカチに固まってからです。」との説明が。今日は完成できないのかな？と不思議に思ったところで、すでに乾燥してカチカチになった「がたどろだんご」を配っていただきました！

磨く道具は、軍手、マイクロファイバーの布（眼鏡拭きなど）、ガラス瓶です。磨くことで、潟泥の主成分であるモンモリロライトが表面にきれいに並び、光を反射するようになるそうです。みんな夢中になって磨き始めました。光れば光るほど楽しくなっています。

最後に、好きな色に塗って仕上げました。絵の具が乾いた後にさらに磨くと、よりつやつやになったり、部分的に色が落ちて味のある仕上がりになったりするそうです。色を塗らずにがたどろそのものの光沢を追求する参加者もいました！

皆さんの家でがたどろだんごを育てて、世界に一つだけの「光るがたどろだんご」が完成するのが楽しみです。（参加者26名）



講師の山田良典先生



丸めやすいように水気を飛ばした潟泥



手触り気持ちいいね



きれいな形に丸めていきましょう



ビンのふちを使って磨きます



もっと磨いていこう



色をぬっていこう



お父さんは塗らずに輝きを追究



完成した がたどるだんど